

やんばる自然体験活動協議会 ニュースレター

編集・発行／やんばる自然体験活動協議会

イタジイの森

2017年
秋・冬号
(Vol.36号)



2017、7/17 (海の日)
宇良の海岸で産卵後のウミガメ発見。
何故か 50 分もその場にジッとしてたのは謎です。
陽が射してきたので、促してあげると
あっという間に海へ…。



過去最高の平均気温を記録した今年の夏…。台風も来ず、雨も降らず、刺すような直射日光は痛いくらいでした。やんばるの海岸では恒例のウミガメの産卵…。今年もたくさんのウミガメたちがやんばるの浜に産卵に来てくれました。

15年以上、ウミガメを見守り続ける日本ウミガメ協議会の嘉陽宗幸氏によると、この2～3年はアカウミガメの産卵数が減少傾向なのだそうです。やんばるの浜から旅立った子ガメ達が、いつの日か産卵の為再び帰ってこられる砂浜をいつまでも残してあげたいものですね。早朝から村内一円の海岸を見回る嘉陽氏からは、ウミガメの生態だけでなくアカマタなどヘビ類の行動、様々な野鳥の渡り、季節ごとの植物等々、貴重な場面をたくさん報告頂いています。これからは、クジラの移動など、季節の移り変わりが感じられる報告が楽しみです…♪ (Nao)

～平成29年度前半 協議会イベントの紹介～

観察会に体験会…、夏休みの宿題もバッチリ?!

◎4月～8月に、観察会2回、ボランティア作業1回、体験会2回が行われました。
ご参加下さった皆様、ありがとうございます。

「サザマ石のアジサシ観察会」 7/1 (土)



辺土名高生と一緒に営巢中の「エリグロアジサシ」を観察。今年も、サザマ石で抱卵3巣、成鳥10羽が確認できました。

「外来植物『ツルヒヨドリ』駆除ボランティア作業①」 7/9 (土)



防風林内で他の植物と絡まった群生をボランティアの皆さんで駆除しました。暑い中、ちびっ子達もよく頑張り、周辺スッキリ～!

「奥間川水生生物観察会」 7/22 (土)



辺土名高校生のガイドによる奥間川観察会は今年も賑やか…♪ 今年も、北山高校生物部の生徒達もガイド役で初参加!

「夏休み紅型体験教室」 7/31 (月) 宮城友紀氏 (天底じんがた工房)



紅型の作業行程を、たっぷり時間をかけて教わりました。「洗い」の後に現われた、思いもかけない美しい色にみんな感激…♪

「へびと仲良くなろう!」 8/14 (月)



リュウキュウアオヘビなどの生体も展示し、詳しくやんばるのへび類を紹介。実際に触って皮フや筋肉の動きを確かめたよ。

平成28年9月15日指定

「やんばる 国立公園」指定1周年に寄せて

今年、やんばる国立公園が誕生して1年目の年となりました。「多様な生命(いのち)育む山と人々の営み」が感じられる、新しい国立公園がこれから地域に長く愛され、身近なものとなっていくために、やんばる国立公園の森・川・里・海の魅力を一緒に伝えてくださる、地域の施設や団体の取り組みと一緒に盛り上げたいと考えています。

やんばる自然体験活動協議会では、やんばるの自然について、わかりやすく伝えていくためのグッズ(頒布物)を発行しており、この機会に頒布にご協力いただいている施設・団体の皆さまよりいただいている、メッセージや今後の活動の展望をご紹介します。また、やんばるの自然体験のあり方にも関わる、「森林ツーリズム」の検討をすすめている事務局の沖縄県からもコメントをいただいています。イタジイの森紙面でも、やんばる国立公園の魅力を地域の皆さまと一緒に伝えていけたらと思っています。

ぶながや館 (おおぎみまるごとツーリズム)

昨年の9月に「やんばる国立公園」となり、人類共通のかけがえない財産、過去から未来へと引き継ぐ宝物として、世界自然遺産登録に向け動き出した「やんばる」。県内外から訪れる人が増加しやんばるの魅力を知ってもらう機会が増えました。環境保全と地域活性化の共存は非常に難しい課題ではあるが、今後もより多くの方に奇跡の森の魅力を体験・体感してほしいと思います。



やんばる学びの森 (国頭ツーリズム協会)



やんばる国立公園指定1周年おめでとうございます。今後、これまで以上に公園を生かした取り組みが、事業者等から発生すると思います。森林ツーリズムの分野では、ガイド、プログラム認定により、顧客満足度向上を図りたいと思います。そのためにも、ガイド間の有益なつながりを大切に取り組みでいきたいと思っています。

【森林ツーリズムとやんばるの自然体験活動】

沖縄県森林管理課では、やんばる3村において、山村地域に固有の資源を持続可能な形で活用した観光による地域振興を図るため、「やんばる型森林ツーリズム推進体制構築事業」を実施しており、地域の多様な関係者と共に、利用ルールやガイド制度等を定めた「全体構想」の策定、及び3村で一体となった組織体制の構築に取り組んでいます。本取組がきっかけとなり、地域の主導により、やんばるの貴重な自然や文化が将来に渡り保全されるとともに、世界自然遺産の恩恵が林業関係者を含めた地域住民に広く行き渡ることで、地域振興が実現されることを期待しています。

国頭村森林公園 (国頭村森林組合)

「森林ツーリズム」という言葉をご存知でしょうか？ 私たち国頭村森林組合は、琉球王朝時代から続く「林業」という仕事を現代も行ってはいますが、近年、森林ツーリズムというエコツーリズムとは少し違う、林業という仕事の視点からの自然体験活動や環境教育プログラムの提供へ向けて取り組みを行っています。森林ツーリズムを通して、林業と人の生活との関わりや、生き物との関わりを伝えていければと考えています。



東村ヒルギ公園 (東村観光推進協議会)

やんばるでの自然体験は自然との距離感が近く、自然と真正面から向き合うことで普段は聞こえない自分の声が聞こえたりします。国立公園への思いを実現してくれた先人たちの志が途切れぬよう、後世への橋渡しのために、僕たちは精一杯、自然体験活動を通してやんばるの魅力を発信していきます。



東村山と水生活博物館



当博物館はこれまで東村の自然を親しみながら学び、保護する活動を中心に取り組んできました。やんばる国立公園となった事で今まで以上に自然の大切さを伝え、未来のために繋がる活動を続けて行きたいと思っています。

～ウフギー自然館～

秋・冬のイベント案内

ウフギー自然館では、秋以降も様々なイベントを企画しています。日程が決定しているイベントは下記の通り！
気になるイベントがあれば、皆さまお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加下さい。

●各イベントとも、詳細が決まり次第チラシやHP等でお知らせします。

◎11月14日(火)～30日(木)【企画展】
「動物画家・岡田宗徳ワイルドライフアート作品展」

◎11月25日(土)【観察会・講演会】
観察会 「岡田宗徳と歩く森の観察会」
9:30～11:00 ※定員20名、要事前申し込み
講演会 18:00～19:30
※自由参加、どなたでもお気軽にご参加ください。

- ①「動物の絵描き 動物・自然～つなぐ想い～」
講師：動物画家・岡田宗徳氏(アトリエマンセル)
- ②「ヤンバルクイナの不思議 やっぱりこの鳥は特別だ！」
講師：長嶺隆氏(どうぶつたちの病院沖縄)

◎11月26日(日)【体験会】
体験会 「動物お絵かき教室」9:30～11:00
講師：岡田宗徳氏(動物画家)

◎12月16日(土)【講演会】
講演会 「ゆっくり気長に過ごすヒマワの生き方」18:00～19:30
講師：森 哲(京都大学准教授)

◎12月17日(土)【お散歩観察会】
「シロハラがやってくる冬の森」8:30～11:00
講師：上地広美(アクティブ レンジャー)
次回開催(予定)1/21(日)、2/18(日)

- ◎やんばる写真展2017 巡回展の予定
- 1、国頭村森のおもちゃ美術館(国頭村)
10/24(火)～11/7(火) ※終了
 - 2、3村観光連絡拠点施設観光案内所(国頭村)
11/7(火)～11/21(火) ※終了
 - 3、大保ダム資料館「ぶながや館」(大宜味村)
11/21(火)～12/5(火)
 - 4、大宜味村史編纂室(大宜味村)
12/5(火)～12/26(火)
 - 5、やんばる学びの森(国頭村)12/26(火)～1/16(火)
 - 6、山と水の生活博物館(東村)
1/16(火)～2/13(火)

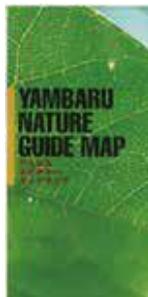


◎やんばる自然体験活動協議会の頒布物◎

当協議会で発行している頒布物は下記の4種類。今年度より、保全活動の充実を図るため一部協力金の変更がありますのでご確認ください。皆さまから頂いた協力金は、「保全活動費」としてやんばるの自然環境保全や環境教育、普及啓発活動等に活用させて頂いています。これまでに、外来植物駆除作業数回、やんばる3村各教育委員会への双眼鏡の寄贈、ロードキルマグネットの作成などに活用しました。



改訂版生きもの図鑑 @500円



やんばるネイチャーガイドマップ @200円



やんばる自然のあしび手帳 @200円



ロードキル防止マグネット (オキナワイシカワガエル) @400円

好評につき、「オキナワイシカワガエル版」は完売となりました。新作をお楽しみに！

＝編・集・後・記＝

暑すぎる夏にグッタリしてる間に、「夏号」発行のタイミングをすっかり逃してしまい、反省の秋・冬号 国立公園指定 1周年記念号ともなり、沢山の方々の寄稿に感謝です。改めて振り返る夏のイベントのあれこれ…。どれも、みんなの笑顔があふれ楽しく充実してたなあ…としみじみする寒～い冬の日…。(Nao)

やんばる自然体験活動協議会

【構成団体】

国頭村・大宜味村・東村・沖縄県環境部
環境省那覇自然環境事務所

2017.11 発行

やんばる野生生物保護センター「ウフギー自然館」
〒905-1413 沖縄県国頭村字比地 263-1
TEL. 0980-50-1025 FAX. 0980-50-1026

イタジイの森 秋・冬号 (臨時ページ)

お知らせ

平成29年10月15日～16日にかけて、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録に係る国際自然保護連合（IUCN）によるやんばる地域における現地調査が行われました。

現地調査では、やんばるの森が世界自然遺産の基準を満たすような生態系なのか、またやんばるの森が遺産として今後も地域に守られていく見込みがあるのかが審査されるものですが、後者について、今回視察員の方に、地域の自然体験活動に関する取組、それから希少種等密猟・盗掘防止のための林道調査（林道パトロール）に関わる地域の方の展望などについてもご紹介しました。その内容について、山川安雄氏（国頭村社会教育委員長・国頭村森林組合理事）が視察に向けてとりまとめたものを読者の皆さまとも共有したいと思います。

遺産登録のために一番大切なことは、地域の皆さまで自然を大切に、民間と行政が協力して保全に取り組んでいる事です。今回視察員の方々に、地域でがんばってきた取組を紹介できたことをとても嬉しく感じています。

地域の小・中学校の取組を少しだけご紹介

【奥小学校】

- やんばる国立公園指定記念自然観察会
- 地域林道パトロール参加（児童・保護者・教員）
- 職員研修【ウフギー自然館を活用したやんばるの自然学習（与那覇岳散策）】
- ヤンバルクイナ生息状況調査や、北国小・佐手小合同による飛び出し防止注意喚起看板の設置、木片チップ敷
- ウミガメ救助活動
- 奥川水質・水生生物調査（2008年より11年目）
・海岸清掃・奥茶摘み、手揉み、試飲体験（奥みどり）、等

【北国小学校】

- ヤンバルクイナ生息状況調査や、奥小・佐手小合同による飛び出し防止注意喚起看板の設置、木片チップ敷、草刈り
- やんばるの森講演会の開催（協力NPO法人どうぶつたちの病院）
- 西表島ヤマネコクラブや、沖縄大学と情報交換会の開催
- ウミガメ調査
- どんぐり探しを通じた自然体験活動（地域人材活用）
・海岸清掃、ゴミ拾い（2010年より9年目）、等

【佐手小学校】

- 海岸、佐手川ゴミ拾い
- 辺野喜ダム周辺動植物観察会
- 地域林道パトロール参加（2013年より6年目、児童・教員・保護者）
- ヤンバルクイナ飛び出し注意喚起看板の設置、木片チップ敷（奥小、佐手小合同）、等

【宍田小学校】

- ヤンバルクイナ生体展示学習施設見学（生態学習、落ち葉プレゼント）
- ヤンバルクイナ飼育繁殖施設の飼育ゲージのための落ち葉集め（毎週）
- 海辺のゴミ拾い、等

【宍波小学校】

- パイン農家体験、魚さばき体験
- ヤンバルクイナ生息状況調査
- やんばるの自然見つけ
- 国立公園保護区域学習
- やんばる美化センター見学、等



【辺土名小学校】

- 与那覇岳、奥間川、「やんばる学びの森」、辺土名海岸、他フィールドにおける自然体験活動
- 地域人材を活用した環境教育学習会の開催
- 世界自然遺産登録推進「のぼり」設置、等

【奥間波小学校】

- 自然にかかわる絵本の読み聞かせ
- ウフギー自然館を活用したやんばるの自然学習、等



【国頭中学校】

- 「やんばる学びの森」や「ウフギー自然館」にて自然体験活動及び環境教育を実施
- 国頭村役場世界自然遺産対策室長による講演会
- 校長先生による講話の中での普及啓発、等

●地域住民による林道パトロールを行ってきて (田嘉里山筆者会・金城さん)

田嘉里山筆者会では、活動を通して集落における自然・歴史文化などの資源を再認識し、盗掘や不法投棄などの現状を把握する事にくわえ、より地元を保全する力を養うために住民参加型の林道パトロールをおこなっています。再認識した地元の魅力や情報などは共同店などに掲示し、普段のゆんたくでの話題を含め、地元の利用者や観光客にも旬な情報を伝えられるようにしています。



活動の成果として、林道パトロールの本来の目的はもちろんですが、住民が直接参加することで自然と生活とのかかわりや、文化の創造への影響などを感じ、**自らが生活するやんばるの自然環境を守らなければならないという、意識が高まりつつあると実感しています。**

これまで、自然保護・環境保全・野生生物・希少種・林道パトロールなどの用語は、専門家・環境省など研究の対象、森林組合の仕事、写真家・自然オタクなど特殊な職業・趣味の世界というイメージがありました。やんばるの自然はそれらの人々の活動の場であり、地域住民はフィールドを提供しているだけというマイナスのイメージも少なからずあり、積極的に関わりたいという思いはありませんでした。しかし、林道パトロールに参加することで、それらの職業への理解ができ、**やんばるの環境保全は地域の生活の問題だという考えもできつつあります。**

山筆者会メンバーもこれまでは「地元はいいところ」という漠然とした「思い」がありましたが、希少生物を育むやんばるの森をパトロールし自然環境を実感して理解することで、より具体的な知識を持った「思い」になってきています。これは専門家も一緒に「地域住民による林道パトロール」を行った効果です。活動の波及効果として田嘉里山筆者会のメンバーを中心に地域産業市「グラの郷田嘉里むん市」を開催してきました。その中の写真展で林道パトロールの情報共有もおこなってきました。

これからも地域住民による林道パトロールがより強化され、「自然保護」という言葉が専門家や特殊な職業の業務分掌の狭い範囲で終わることなく、やんばる三村の住民に浸透し、日常生活の中でも環境について考えられるようになり、「環境保全」という言葉が広く意識されるようになってほしいと思います。



今後の山筆者会の課題としては、より多くの区民への参加の呼びかけと、得た情報のお知らせ、地域おこしへの活用などが考えられます。

昨今、国立公園設定、自然世界遺産への登録への動きなどがありますが、何のための「国立公園」制定か「世界自然遺産登録」か、その目的が、まだまだ地域住民の意識に降りてきていません。そのような観点からも「地域住民による林道パトロール」活動は最も効果的な啓発活動と考えます。

●やんばる世界自然遺産登録にむけて (自然流工房「奥庵」・糸満さん)

やんばるの森を歩く度新鮮な体験があり、同時に懐かしさを伴う根源的な感覚を呼び覚まされる。私たちの集落では森林を生業とした生活は過去のことだが、人の生きた痕跡はいたるところに残っている。その懐かしさは、昔と形態を変えた共生の場が語りかけてくる感覚に近い。

林業から農業へ。その基幹産業である農業も耕地面積の狭さ収益率の少なさから、後継者の減少と、未来が見えない。

国立公園、世界自然遺産への登録の実現は農業の付加価値として、森林資源の付加価値として、大きな転機(チャンス)に成りえるのではないかと様々な知恵によって、様々な雇用を生み出す機会に成りえると感じる。

やんばるの森は、生活者との距離の近さに特徴がある。やんばるに住む私たちの生活は昔も今も自然との共生なくして成り立たない。やんばるの森の生物多様性には人間も含まれる。反面、私たちにとってやんばるの森は、生まれた時から当たり前存在していてその豊かさに気づかないでいるようにも思える。私たちの林道パトロールの意義も大方この点にある。

初めて参加する大人も然り、子供たちとのパトロールには常に新鮮な発見がある。未知の世界に初めて遭遇したような感動の言葉、「やんばるの森にはこんな生き物がこんな生活をしているんだ。」

身近すぎて気づかなかった自然の豊かさ面白さ。

自然との共生をとおして膨らむ自然の大切さ、愛おしさ。

願わくば、世界自然遺産登録の意義に今後も続く啓蒙・啓発の活動を考慮していただきたい。

